

農村交流、活用法学ぶ

甘
楽

山口県の「農家民宿」など実践例紹介



農村の活性化などについて話す
白松さん(手前)

農村資源を活用した交流事業や滞在、定住促進などについて学ぶNPO法人自然塾寺子屋(本部・高崎市)の研修会が、甘楽町ら・かんつで開かれ、山口県阿武町の「あつたか村」社長、白松博之さん(61)が実践例を

紹介した。白松さんは妻とともに「農家民宿」を営営する傍ら、山林や農地に丸太小屋などを建設し、キット住宅販売も開始、車いす生活を送りながら手掛ける事業などについて説明した。都市部に住む化学

物質過敏性の住民らと出会い、地主らの理解を得ながら事業を本格化してきた経緯などを語った。

国際協力機構(JICA)の海外研修員受け入れや、地域のグリーンツーリズムにも触れ「より多くの人情報共有し、訪れる人たちから何を学び、地域がどう成長するか見極めることが大切。起業の支援をしたい」と述べた。